楽しく花作り

う切り戻し

近年の猛暑対策として、蔓(つる)性植物を利用した「緑のカーテン」が注目されています。アサガオ類やニガウリなどに加えて、今回紹介するトケイソウの仲間も利用できます。

■栽培上の特性

トケイソウ科には約500種あり、多くは南北アメリカ原産です。園芸品種も多数あり、多年生草本ですが、一部氏

月おきぐらいに緩効性肥料を置き肥します。

高温時期は鉢土が乾かないように、特に鉢植えはこまめに水やりします。秋になったら、鉢土の表面が乾いてからでいいでしょう。

■剪定(せんてい)

新しい蔓に花芽を付けるので、蔓数が増えるように切り戻します。春は混み合った枝を間引く程度に行い、秋には伸びすぎた枝を切り戻し、新芽を伸ばして翌年の開花枝とします。浅く切り戻すと新芽

く切り戻すと新芽が伸びないことがあるので注意します。

■さし芽

繁殖はさし芽で行います。夏から秋に蔓を2～3節ずつ切り、下葉を落としてさし芽します。

■病害虫

アブラムシ、ハダニなどに注意します。植え替えなどで根を傷つけた場合は、立ち枯れ病にも気をつけて下さい。

（フラワーパークかごしま
栽培管理課調査役兼支所補佐

の中アジが10～20匹。梅雨明けには魚種にかかわらず数釣りが楽しめる。瀬渡し船蝶栄丸＝0996(33)1169。

阿久根 磯釣りで30～35ｾﾝのクロが5、6匹。35ｾﾝ前後のバリ（アイゴ）が2、3匹。港近辺では小アジ、小サバ、コノシロがぼちぼち。井手釣具店＝0996(73)3318。

佐多・内之浦 大根占や内之浦一帯の砂浜で15～20ｾﾝのシロギスが10～15匹。餌はゴカイ。夜釣りは間泊港、船間港、伊座敷港からの瀬渡しで1～1.5ｷﾛのシブダイがフカセ釣りで3、4匹。サバ、イサキが交じる。今後の釣果に期待。フィッシング海遊館＝0994(44)2626。

志布志 岸壁釣りで手のひらサイズの梅雨グロ、1ｷﾛのチヌ。投げ釣りでグチやニベの子も。中アジや大アジがぼつぼつ。船釣りでは中アジ、大アジ、ニベ、ネイゴ（カンパチの子）が釣れる。水間釣具店＝099(472)1227。

種子島 島内の砂浜で手のひら～足裏のヒラアジがルアーで10～20匹。例年より形はまだ小さめ。夜釣りは地磯で1ｷﾛ前後のシブダイが数匹。2ｷﾛ前後も交じる。中ムロ、大ムロが20～30匹。種子島ブロイラー＝0997(23)1129。

日南 日南沖はマダイが好調。65ｾﾝが7、8匹上がることも。アジやサバはまずまずでこれからに期待。2～5ｷﾛのネイゴも釣れる。港内はアジがぱらぱら、足裏サイズのチヌも時折上がる。沖磯は夜釣りでシブダイやアジ、イサキ、アラが釣れる。渡船かいゆう丸＝090(5946)7258。（この項宮崎日日新聞社提供）

潮位
123
139
146
142
134
—
11
-2
-5
2
19
44

【時刻修正】（十）坊津5分、牛根15分、串木野25分、阿久根35分（一）西之表15分、一湊10分、志布志55分、油津

中四国、近畿、九州の釣り情報満載
釣りタイムズ
iPhone・Android
スマホにも対応!
好評公開中
http://nm.turitai.jp/

投稿は、〒890-8603、南日本新聞社文化生活部「釣り係」（住所不要）＝099(813)5133。「私のヒット」はturi@373news.comへ。
右の2次元コードでアクセスできます。
電話番号も書いてく

相模原市の知的障害者施設「津久井やまゆり園」で入所者19人が殺害された事件は26日、発生から3年を迎える。「障害者は不幸をつくることしかできない」―。こう主張した加害者に真正面から立ち向かうべき私たち社会は、どのような心を育て、何を共有していくべきだろうか。鹿児島県内の識者に、それぞれの考えを聞いた。

相模原殺傷事件から3年　鹿児島県内識者に聞く

「人間観」問う契機に

鹿児島国際大大学院教授
蓑毛　良助さん

事件の本質を捉え、予防策を考えるためには、加害者の価値観や取り巻く環境を徹底的に分析すべきだろう。発生から3年たつが、生育歴や就職理由、障害への理解度など不明な点が多いことが気がかりでならない。

加害者は特殊な思想の持ち主ではない。各自の成長過程で、障害者との関わりがどの程度あったかによって、理解の深さが変わることも事実である。

授業で接する大学生には「障害者が幸せを感じる瞬間はあるのか」と疑問を持つ人もいる。自分とは違う存在と感じるからだという。こうした学生が、障害者施設で実習を受けた後の反応が興味深い。「同じ人間と気付かされた」や「暗い印象があったが、実際は明るい面も多い」と語り出す。体験を通した気づきほど、重要なものは無いと感じる。

障害の有無は確率の話であり、障害者が存在しない世の中は考えられない。自分自身が障害者として生まれた可能性もある。だからこそ、社会全体で支える仕組みが求められる。特に普段から接する施設職員に対しては、継続的な研修や働きやすい環境づくりが求められることは言うまでもない。

障害は「大切だが、日ごろ忘れていること」を教えてくれる。目の不自由な人に対し、相手の名前を呼んであいさつすると、コミュニケーションが円滑に進むことが好例だ。

事件の節目に改めて障害について考えることで、それぞれの「人間観」を見つめ直してほしい。（中咲貴稔）

みのも・りょうすけ　1949年4月生まれ、肝付町出身。東京教育大大学院教育学研究科・博士課程単位取得後退学。障害児心理学に詳しい。日本福祉心理学会理事。姶良市障害者自立支援協議会長。鹿児島市就学指導委員会審査委員。

地域の防犯力高めて

社会福祉法人落穂会理事長
水流　純大さん

3年くらいでは風化しないような衝撃を残した事件だが、われわれにもたらした影響は大きく二つある。「施設の安全、防犯体制の見直し」と「偏見に対しての取り組みの重要性」だ。

安全性確保については、地域に開放された施設を目指していることもあり、入門ゲートを設けるなど、地域との関係を断ち切ってしまうことは、すべきではないと考えている。そもそも事件のあった施設は、施錠管理など安全性に問題があったわけではなかった。

対策として、最新の防犯設備を導入したり、不審者対応訓練を充実させたりしたが、限界はある。重要なのは近隣住民との交流を地道に深めて「顔が見え、名前で呼び合える」関係を構築し〝地域の防犯力〟を高めていくことだ。

障害者への理解は深まりつつあると考えているが、「社会の荷物」と考えている人がいる現実もある。ただ、われわれから「受け入れてくれ、分かってくれ」と一方的に、要求することは意味を持たない。

双方向のコミュニケーションを図るために、事件後は町内会の忘年会の会場として施設を解放するなどの努力を続けてきた。その中で、施設職員と利用者も加わって、二十数年途絶えていた地域の郷土芸能「棒踊り」の復活に貢献することができた。地域への浸透が深まったことを実感できるいい経験になった。

これからも、小さなことからコツコツと、地域との信頼関係を積み重ねていきたい。（中元聡史）

つる・すみひろ　1964年3月生まれ、鹿児島市出身。鶴丸高校卒業後、横浜国立大学経済学部。障害児入所施設あさひが丘学園施設長。2020年燃ゆる感動かごしま大会専門委員会委員。県知的障害者福祉協会会長。

絶望 新たな世界の入り口

「人生相談」が初のイベント

ニッポン放送の開局65周年を記念し、同局の最長寿番組「テレフォン人生相談」の出演者によるトークイベントが、東京都の新宿文化センターで開かれた＝写真。会場を埋めた約1800人の番組ファンが、パーソナリティーで早稲田大名誉教授の加藤諦三さんら、出演者の生の語りに聞き入った。

悩みに耳を傾け続けてきた同番組だが、イベントの開催は初めて。

加藤さんは40年を超えるパーソナリティーとしての活動を振り返り、「相談者は自分の人生に行き詰まり、絶望している方が多い」と指摘。「でも、絶望は古い世界の出口であり、新しい世界の入り口です。見方を変えれば、新しい世界の希望になる。絶望とは『あなたが変われ』というメッセージなんです」と満席の会場に語り掛けた。

トークのテーマは「65歳からの素敵な生き方」。加藤さんは、高齢に対する世の中のイメージが悪すぎるとし、「高齢とは『老衰』ではなく『成熟』です」と訴えた。同じく長年パーソナリティーを務める医師で登山家の今井通子さんは「65歳を過ぎても、何か悩みがあったら『テレフォン人生相談』をお忘れ